

米軍新基地建設 鳩山「方便」発言 政権ついたら米国いいなり 赤嶺議員が民主党政権の“変節” ただす



赤嶺議員の追及にこたえる菅首相
=2011年2月17日



米軍普天間基地の県内「移設」の理由に、在沖縄米海兵隊の「抑止力」をあげたことは「方便だった」と述べた鳩山由紀夫前首相。2月16日の衆院予算委員会でこの発言を取り上げた日本共産党の赤嶺政賢議員の質問で、民主党政権の変節ぶりが浮き彫りになりました。

質問の要旨を紹介します。

日本共産党

**新たな米軍基地押しつけが、こんなに軽々しく決められたのか（赤嶺）
（鳩山氏と）私の認識は違っている（菅首相）**

鳩山前首相が2月13日の沖縄地元紙インタビューで、民主党の政権公約だった米軍普天間基地（宜野湾市）の「県外・国外移設」を断念した理由として在沖縄米海兵隊の「抑止力」の重要性を挙げたことは、「方便だった」と語りました。

赤嶺議員はこの発言に触れ、新たな米軍基地を押し付ける決定がこんなにも軽々しく決められたのかと、菅首相をただしました。

●赤嶺 戦後、米軍基地にずっと苦しめられてきた沖縄に新たな米軍基地を押し付ける決定がこんなにも軽々しく決められたのかと、開いた口がふさがらない

○菅直人首相 私の認識とは違っている。海兵隊を含む在日米軍の存在はわが国、アジア太平洋地域の平和と安定に大きな役割を果たしている。

**米軍にとって沖縄はパラダイス。「抑止力」は、まさに「方便」（赤嶺）
海兵隊基地の存在は政府の方針として取り決めた（菅首相）**

「米国は沖縄に在ることでパラダイスのような居心地の良さを感じている」という鳩山氏の発言を紹介。沖縄は戦後、米軍占領下で強制的に土地を奪われたこと、アメリカが負担すべき米軍の住宅建設や光熱水料まで「思いやり」予算で日本が肩代わりしていることなど、米軍の「パラダイス」（鳩山氏）となっていると告発しました。

「抑止力」という言葉を使ったことだ。日米合意を正当化するためのまさに「方便」だ。

●菅首相 沖縄の海兵隊基地の存在は政府の方針として日米間で取り決めている。

●赤嶺 問題は（鳩山氏が）そういう認識を十分に持ちながら辺野古に基地を押し付けるために

長年にわたる基地押し付けの姿勢を変えようとしない菅首相。赤嶺議員は、鳩山氏を参考人として招致し、県民総意に背く日米合意をただすため集中審議を行うよう求めました

**菅首相も「抑止力」を否定していた。なんのための政権交代だったのか（赤嶺）
私が変わったのは国際情勢の変化（菅首相）**

野党時代、菅首相も海兵隊の「抑止力」を否定する発言をおこなない、著書でも歴代首相の対米従属の在り方を批判。「民主党中心の政権では、海兵隊の沖縄からの撤退を真剣に検討するよう米国にはつきり求めていく」と強調していたことに触れ、赤嶺氏は、菅首相が就任2日目の6月6日、オバマ米大統領との電話会談で日米合意を踏まえ、取り組むと伝えたことについてただしました。

●菅首相 私が変わったのは国際情勢の変化もある。日米合意を踏まえた形のスタートが日本の大きな意味での国益に沿うものであると考えた。

●赤嶺 政権に就く前と就いた後で言っていること、やっていることがまったく正反対ではないか。

●赤嶺 国際情勢の変化と言うのは後付けで方便だ。政権に就いたらアメリカにものが言えなくなったということだ。民主党は対等な日米関係を掲げていたはずで、これでは一体何のための政権交代だったのかと言わざるを得ない。

鳩山氏のインタビュー（抜粋）

「党として『最低でも県外』と決めてきた。鳩山個人の考えで勝手に発言したというより党代表として党の基本的考えを大いなる期待感を持って申し上げた。見通しがあって発言したというより、しなければならないという使命感の中で申し上げた。しっかりと詰めがあったわけではない」

「防衛省も外務省も沖縄の米軍基地に対する存在の当然視があり、数十年の彼らの発想の中で、かなり凝り固まっている。動かそうとしたが、元に舞い戻ってしまう」

「徳之島も駄目で辺野古となった時、理屈付けをしなければならなかった。海兵隊自身が（沖縄に）存在することが戦争の抑止になると、直接そういうわけではないと思う。海兵隊自身の抑止力はどうかという話になると、抑止力でないみなさん思われる。私もそうだと理解する。それを方便と言われれば方便だが。広い意味での抑止力という言葉は使えるなと思った」（「琉球新報」2月13日付から一部抜粋） しんぶん赤旗より